

西伊豆健育会病院

崔 京蘭 (サイ キョウラン) (看護師/3階病棟)

- 功 績** 異国の地で地道に努力を重ね、知識と技術を身に付け、患者満足度向上に寄与すると共に、西伊豆で医療のグローバル化を成功させた功績
- 推 薦 者** 仲田 和正 (院長)
- 推 薦 理 由** いつも真摯な態度で患者さんに接し、類い稀な才能を遺憾なく発揮し、患者さんのためにと日々努力している崔を今後も訪れるであろう外国人看護師・介護職員の模範といたく理事長賞に推薦いたします。

内 容

過疎化が進む当地域では看護師確保も大変であり、H29年4月から、3名の中国人看護師が入職することとなった。グループ本部の尽力や、看護部も教育体制を整え、受け入れ準備は万全であったが、中国人看護師が、患者と上手くコミュニケーションを図れるのか正直、不安だった。しかし、実際に勤務開始となり、彼女達の仕事ぶりを見て不安な気持ちは払拭された。患者さんからは「とても親切に接してくれる」と評判は上々であり、私達医師からの指示受けも、会話も問題無かった。

3人の中でも私の目を引いたのは、3階病棟に勤務している崔京蘭である。彼女は、詩吟をやっている患者さんと李白の「静夜思」で話が合い、崔が漢文と日本語訳を書いて患者さんに渡し、仲良くしていた。患者さんは本当に嬉しそうに私に報告してくれた。崔は自分の担当する患者さんに誠心誠意尽くすことをモットーとしており、患者さんとの会話を声だけ聞いていると、日本人か中国人か区別がつかないほどで、擬音語、擬態語を見事に使いこなし、流暢な日本語で話している。

また、崔のカルテ記載は日本人に引けを取らないほど分かり易く、勤勉さに驚くと共に頭が下がる。健育会グループでは新人教育体制が整っていて、崔も昨年はプリセプターから丁寧に指導を受けていた。一人立ちした今は、他の病院職員からお褒めの言葉を頂く程の看護サマリーが作成できるようになった。一年目は、とにかくプリセプターの真似をすることで精一杯であったが、現在は、自分の言葉で記録ができるようになったと目を輝かせている。

日本のあるゆる分野が国際化していく中で、これまで医療のグローバル化は難しいと言われ最も出遅れた分野だった。それは日本と海外の医療の間には、医療制度、医療倫理の問題など様々なギャップがあったからだと考えられていた。しかし今回、看護管理研修に使用された崔のカルテや、患者さんからの感謝の言葉を聞き、患者さんに寄り添う気持ちに国境は無いことを崔に教えられた気がした。